



丸毛 啓史

創立 20 周年にあたり、ご挨拶申し上げます。

1998年にスウェーデン・ルンド大学のリドグレン教授が提唱した運動器疾患・障害の克服に向けた国際的なキャンペーンである「Bone and Joint Decade」は、国際連合の支持を得て、2000年1月にWHOが2000-2010年をその期間と定めて、正式に発足を宣言しました。当時の国際連合のアナン事務総長は、今こそ運動器疾患・障害に対する効果的な予防や治療の開発に行動すべきときであるとし、「Musculoskeletal disorders are the most common causes of severe long-term pain and physical disability affecting many millions of people across the globe. They have an enormous impact on the individual, society and health care social systems. There are effective ways to prevent or treat these disabling conditions. But we must act on them now.」との声明を出しています。

その頃、わが国ではすでに1994年に10月8日を「骨と関節の日」に制定し、運動器（整形外科）への国民の理解を深める活動を開始していましたが、「Bone and Joint Decade」の動向に呼応して1999年6月に日本整形外科学会（黒川高秀理事長）がBJD2000-2010部会を立ち上げました。そして、2000年5月に、日本整形外科学会、日本リウマチ学会、日本リハビリテーション医学会、日本脊椎脊髄病学会、日本骨粗鬆症学会、世界少年野球推進財団、日本高等学校野球連盟がfounding memberになり、当協会の設立時の名称であります「骨と関節の10年」日本委員会が発足しました。これ以降、2002年に「運動器の10年」日本委員会、2011年に一般財団法人 運動器の10年・日本協会、2016年に公益財団法人 運動器の10年・日本協会、2017年に公益財団法人 運動器の健康・日本協会へと名称変更し、現在に至っています。

「Bone and Joint Decade 2000-2010」はその後、Global Alliance for Musculoskeletal Health（筋・骨格系の健康に関するグローバルアライアンス）に移行し、期間を区切らない継続的な筋骨格系の研究促進や、この障害により生じる個人、介護者、社会の負担やコストを軽減するために世界的なネットワークを強化し、政策の提言、ロビー活動などを行っています。当協会もこのグローバルアライアンスに参画し、運動器疾患・障害に対する国民の意識を高め、生活の質を向上するために取り組んでいます。具体的には、当協会加盟の学会・研究会44団体、スポーツ関連11団体、患者・家族の会等8団体とともに、特別賛助会員、賛助会員の支援を得て、1) 運動器の健康・日本賞顕彰事業、2) 広報季刊誌『Moving』発刊などの広報事業、3) 運動器健康推進事業を3本柱として、活動を継続しています。

創立20周年を機として、これまでの歩みを記録に残し、後世に伝えていくとともに、今後とも運動器の健康に対するさまざまな取り組みがあらゆる世代に根付き、わが国の文化であると評価されるレベルを目指して尽力する所存です。引き続き、皆様のご支援とご協力をお願いする次第です。